

政治家・官僚・裁判官は、 現実を憲法に近づける努力をせよ！

皆さん、日本国憲法を読んだことがありますか？安倍自民党内閣は「現実合わない憲法は改正する」と言ってます。しかし彼らは「現実を憲法に近づける努力をしていません」。むしろ「国民主権を国家主権へ」と変えようとしています。何となく「今の憲法は現実合わないから、変えてもいいのかな」と思っていますか？憲法は国民が守るものではなく、政治家・官僚・裁判官が国民の意向を無視して、かつてなことをさせないために『憲法は国家を縛るもの』なのです。

（日本国憲法 前文）

日本国民は、正当に選挙された国会における代表者を通じて行動し、われらとわれらの子孫のために、諸国民との協和による成果と、わが国全土にわたって自由のもたらす恵沢を確保し、政府の行為によつて再び戦争の惨禍が起ることのないやうにすることを決意し、ここに主権が国民に存することを宣言し、この憲法を確定する。そもそも国政は、国民の厳粛な信託によるものであつて、その権威は国民に由来し、その権力は国民の代表者がこれを行使し、その福利は国民がこれを享受する。これは人類普遍の原理であり、この憲法は、かかる原理に基くものである。われらは、これに反する一切の憲法、法令及び詔勅を排除する。（詔勅＝しょうちよく…天皇が発する公式文書）

日本国民は、恒久の平和を念願し、人間相互の関係を支配する崇高な理想を深く自覚するのであつて、平和を愛する諸国民の公正と信義に信頼して、われらの安全と生存を保持しようと決意した。われらは、平和を維持し、専制と隷従、圧迫と偏狭を地上から永遠に除去しようと努めてゐる国際社会において、名誉ある地位を占めたいと思ふ。われらは、全世界の国民が、ひとしく恐怖と欠乏から免かれ、平和のうちに生存する権利を有することを確認する。

われらは、いづれの国家も、自国のことのみに専念して他国を無視してはならないのであつて、政治道徳の法則は、普遍的なものであり、この法則に従ふことは、自国の主権を維持し、他国と対等関係に立たうとする各国の責務であると信ずる。

日本国民は、国家の名誉にかけ、全力をあげてこの崇高な理想と目的を達成することを誓ふ。